

原田 幸博 Yukihiro Harada

構造設計 III (選必)、6セメ、水3、受講登録数 35 名

構造設計演習 III (選必)、6セメ、水4、受講登録数 35 名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

筆者の担当している「構造設計 III」「構造設計演習 III」は、建築系コースの選択必修科目であり、建物の主要構造形式の一つである鉄骨構造の構造設計について講義している。これらの授業科目は必修科目ではないが、建築を学ぶ学生が知っておくべき基本的な内容を取り扱っていると考えており、特に将来構造設計を志す学生にとっては必須と考えている。

上記2科目では、

- ・ 建築鉄骨構造に関する標準的なテキストを教科書として指定する
- ・ 教科書の説明を詳しく補うスライドを用意する
(講義前にホームページから PDF ファイルをダウンロードできるようにする)
- ・ 教科書中の例題の内容に準じた演習を課すこと

という形式を守ることを最低限の目標として取り組んだ。そして、成績評価においては

- ・ 2 回の即日設計課題(部材設計、接合部設計)を行う
- ・ 即日設計課題(部材設計)で合格しないと、即日設計課題(接合部設計)の受験を認めない

と二段階を経ることとした。講義中盤に一度即日設計課題を行う狙いは、受講者に講義前半の内容をしっかりと復習させて理解度を高めることにあり、その狙いは達成できたと考えている。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

上記科目はアンケートの 16 項目に及ぶ 5 段階評価では、ほとんどの項目で 4 ポイント以上の結果となっており、概ね良好と評価されていると判断できる。上述の形式上の 3 つの目標を実行するよう心がけていたことが、この評価につながったと思われる。

「13 あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか？」の項目は 2.0 ポイントと低い結果となった。教科書を指定し、さらに詳細なスライドも Moodle サイトを利用して授業前に公開しており、予習と復習に十分な資料は整備できていると思っているが、学生自身による予習・復習に必ずしも結びついていないようである。自宅学習を促す方策を引き続き検討したい。

3. 今後の授業改善について

前半の部材設計の回においては、2 年次までに修得しておいてもらいたい構造力学の知識に関する復習の内容も含めるように計画したが、復習を促す効果は今一つであった。取り上げる例題にさらに工夫をする、即日設計課題とリンクさせる、などの改善を検討したい。

和泉 信之 Nobuyuki Izumi

建築の構造 (必), 1セメ, 金2 (3), 受講登録数 73 名

構造実験 I (選), 4セメ, 火4, 5, 受講登録数 37 名

建築実践研究Ⅲ (必), 3セメ, 金3, 4, 5, 受講登録数 93 名

建築実践研究Ⅳ (必), 4セメ, 金3, 4, 5, 受講登録数 90 名

建築設計Ⅳ (PM・担当) (必), 4セメ, 水4, 5, 6, 受講登録数 82 名

卒業論文演習 (必), 7セメ, 水4, 5, 受講登録数 6 名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

私の授業では、基本的にスクリーン映写 (パワーポイント使用) と講義要点ノートを使用している。講義では、スクリーンに図や写真などをカラーでビジュアルに映写し、要点を順次示しながら、説明を加えるという方式を取っている。講義要点ノートは、毎回の講義内容の要点などが空欄になっており、受講生は講義を聴きながら空欄に要点などを書き込むことにより、内容とともに講義の構成や方向も把握できるので、講義の理解度の向上が期待できる。講義要点ノートには、要点記入欄以外に自由メモ欄を適宜設けており、自分だけのノートを完成できるようにしている。さらに、講義内容と関連する教科書や参考書の該当箇所が表記されており、効率的な復習が可能である。また、講義形式の授業では、小レポートを課している。小レポートは、講義の復習を促すように、講義の要点をまとめて記述する小設問形式としている。さらに、小レポートの最後には質問などの記入欄を設けてあり、提示された疑問点や要望については次回以降の講義の中で適宜対応するようにしている。

初回の授業では、授業の目的と目標を明示して、それに対応した授業構成や進め方を説明して学生の受講意欲を高めるようにしている。初学者の1年次生を対象としている「建築の構造」では、第1回目の授業で「なぜ、建築の構造を学ぶのか」という課題を提示し、「建築の構造」に関する3つのテーマを説明して受講の動機付けを行っている。第2回目以降の授業においても、毎回授業のテーマを明示して、学生が受講目的を意識するようにしている。また、講義要点ノートの配布により、受講生は当日の講義の流れを予測しながら説明を聴くことができるようにしている。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

私の担当授業のうち、1年次生を対象とする「建築の構造」について以下に述べる。

スライドの見やすさ (問5) は平均4.6、声の聞き取り (問3) は平均4.7であり、ほぼ全てのスライドを見て説明を聴くことができたと思われる。そのため、例題などの理解 (問9) は平均4.6、授業の進度 (問11) は平均4.6であり、授業の内容も比較的良く理解できたものと考えられる。教材 (問2) は平均4.7、レポートなどの理解補助 (問10) は平均4.6であり、講義要点ノート、小レポートなどが受講者の理解に役立ったことがわかる。

授業の理解度 (問15) は平均4.1 (d+eは0)、満足度 (問16) は平均4.5 (dは1, eは0) であり、本授業は受講生に概ね良好と評価されていると判断できる。

3. 今後の授業改善について

今後とも授業の目的・目標を明示して、学生の動機付けを行い、受講意欲を高めていくように努めていきたい。1年次生が対象の「建築の構造」は建築の基本であるが、初学者には「構造」という専門分野のため、なじみにくい面が有る。従来からの授業改善コメントに「多くの学生が建築構造学を積極的に学ぶ状況の実現において本講義が果たすべき役割は大きい」、そのため「建築構造学の魅力を伝える工夫を心がけたい」とあるが、全く同感であり今後も改善していきたい。

建築の構造 Structure of Buildings

(必), 1セメ, 金2 (3), 受講登録数 73 名

和泉信之

1. 授業の組み立て方と取り組み方

本授業の目的は、受講生が「建築空間を実現させる上で、最も基本となる建築構造について、その役割、構造システム(材料、形式、工法)及び構造デザインの基礎を理解する」ことである。建築の初学者である受講生が「高さ」、「広さ」という2つの観点から、代表的な建築構造システムの概要を説明でき、「安全」という観点から、建築構造デザインの重要性を認識して、その概要を説明できることを目標としている。そのため、本授業は、建築構造の基本、建築構造システム、建築構造デザインの3つを主なテーマとして、具体的な建築構造をビジュアルに示しながら、講義形式で行っている。講義では、スクリーンに建築物の写真や構造モデルなどを映写して、説明要点を示している(パワーポイント使用)。講義の要点が空欄の講義要点ノート(14編)を配布して、受講時に講義の要点を記入することにより、初学者の受講生が要点を理解しながら進めるようにしている。受講後に、小レポート(12回)の課題を解答することにより、講義内容を復習し、理解度を確認できるようにしている。小レポートは、講義要点ノートや教科書や参考書の参照箇所を再度学習して授業の理解度が一層深まるような設問形式としている。また、小レポートには、最後に質問・要望などの欄を設けており、記入内容に応じて次回以降の講義中に回答するとともに追加説明を行うなど対処している。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

授業の理解度(問15)は回答数54の内a+bが44(d+eは0)で平均4.1、満足度(問16)は回答数51の内a+bが48(dは1, eは0)で平均4.5であり、受講生には概ね良好な評価が得られた。

教材(問2)は回答数58の内a+bが56で平均4.7、レポートなど(問10)は回答数56の内a+bが52で平均4.6であり、講義要点ノート、小レポートなどが受講者の理解に役立ったことがわかる。

出席(問12)は回答数55の内8割以上出席が100%であり、多くの受講生がほぼ毎回出席している。スライドの見やすさ(問5)は回答数62の内a+bが55で平均4.6、声の聞き取り(問3)は回答数60の内a+bが56で平均4.7であり、ほぼ全てのスライドを見て説明を聴くことができたと思われる。そのため、例題などの理解(問9)は回答数61の内a+bが59で平均4.6、授業の進度(問11)は回答数57の内a+bが53で平均4.6であり、授業の内容も比較的良く理解できたものと考えられる。

「建築の構造」は建築の基本であるが、初学者には「構造」という専門分野のため、なじみにくい面も有り、1年次の最初に学ぶ授業としては妥当な授業レベルと内容であったと判断している。

3. 今後の授業改善について

今後とも受講生が授業の目的・目標を十分理解した上で講義するように努めていきたい。また、スクリーン映写の鮮明さに配慮したが、スクリーンが見にくいという回答(問6)も4人(62人中)あり、より見やすいスライドに改善するとともに、映写機器の能力向上を望みたい。また、教室環境としては、温熱環境の改善を望みたい。

宗方 淳 Jun Munakata

建築環境計画 I (必)、3セメ、月1、受講登録数73名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

私の担当している本科目は建築環境に関する全般的な知識を始めて学ぶ場である。建築の光・音・熱・空気の各要素をもたらす要因や環境性能、それを感じ取る感覚の特性および建築空間で環境性能を得るための設計上の工夫や設備の概要について基本から応用の入口までを広範に渡り講義する。講義においては基本的な知識を机上の学問として学ぶだけではなく、実際の数字で検討することも重要であるため、2限目の建築環境計画演習では1限目の講義と連携する形で演習を行っている。また、同じセメスターに実施している設計課題においても、本科目で学んだ知識を応用する場面として役立ててもらいたいと考えている。そこで、講義においては、出来るだけ学生たちが取り組んでいる設計課題と絡んだ話題を提供したいと思っている。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

本学に着任して以来5年目となる本講義であるが、概ねいずれの項目においても満足側の評価を頂けているようになったと思う。毎回残念に思うことではあるが、予習復習にかける時間が非常に少ないが、是非設計課題に取り組む際に本講義で聞いた内容を自身の図面上で思い出してもらうことが出来れば最も効率の良い復習になるのではないかと思う。次年度以降の講義では何かそのような形で学生諸君の興味を一層引き出すような工夫が出来ないか考えてみたい。

3. 今後の授業改善について

前述したとおり、設計課題との連携を図ることが、学生諸君の興味を引き出しより積極的に講義に集中する動機となるので、設計担当の教員と連絡を取り連携を強化できればと思う。

岡田 哲史 Satoshi Okada

近現代建築論 (選)、5セメ、木4、受講登録数 99 名

建築設計 I (必)、3セメ、火3から5、受講登録数 71 名

建築設計VII (選)、6セメ、水3から5、受講登録数 36 名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

3 年生前期の「近現代建築論」では、「建築」がそもそも西洋から輸入された概念であり体系であることを理解させるために、後期ルネッサンスの建築家パツラーディオの辺りから講話を始め、20 世紀近代主義建築に至るまでの建築の動向について、各々の時代に支配的であった思想等を説明しながら、「この時代にどうしてこのような建築が誕生したか」を解説するよう努めている。

そのさい、授業の道具としては、西洋建築を見たり触れたりしたことのない聴講生（毎年授業のガイダンスでヨーロッパ旅行を経験した学生数を調査するが、90 人中 5 人にも満たない）の理解を深める助けとしてビジュアル資料が不可欠と考えスライドを多用しているが、当時の文献を聴講生にできるかぎり生々しく感じてもらうために、一次資料等をスキャンした文献も時間が許すかぎり見せるようにしている。ホンモノに触れたり見たりすることが、対象に興味をもつきっかけを与えるうえで最も効果的であると考えからである（私の教育的信条）。その他、授業の内容はいくつもの時代にわたり複数の国々を横断的に扱うため、聴講生にとってこの授業で教わる知識が散逸的にならないよう、毎回の授業でその日の授業を始める前に前回までのおさらいを欠かさずおこなうようにしている。

「建築設計」の授業は、演習授業であり、各々の設計課題に応じて指導をおこなっているが、基本的スタンスとしては、学生の自由な発想を限定したり障害したりしないように、個々人の個性が個々人の作品に最大限に発揮されるよう、教える内容はあくまでも基本的事項（技術的なことから社会的常識まで）に抑えている。まずは課題の読込みを学生と一緒にしておこない、そのあと、各自が設計してみたいと考える建築について、そのイメージを構築するプロセスを経験させる。そのさい、パワーポイントを活用し、自分が作成した資料を皆の前で発表させ、プレゼンテーション能力を養う訓練も行っている。そのあとそのイメージが果たして課題の条件に相応しいかどうか入念に分析と考察を繰り返し行わせ、ソリューションの構築へと向かわせるという手順である。表現手段等は、一定のルールを定めるほかは各自の個性に委ねている。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

建築設計の授業は私の分に授業評価が存在しないため、ここでは「近現代建築論」にかぎって述べるが、評価結果は今年も概ねよいと判断している。以下の 3 に関連することでもあるが、本授業は年を追うごとに他学科生の聴講が増えており、その結果、所定より 20 名超過し 90 名を超える学生（今年度は実際に 99 名を数えた）が相対的に狭くなってしまった教室に鯨詰め状態と化している。

他方、毎年のものであるが、建築の基礎知識（世界建築史）を 1 年時に学んでいない他学科の学生が増えていているため少し丁寧に解説するよう心がけている反面、それが逆に授業の進度を遅らせる結果を招いていることも否めず、予定通りの授業進行に困難をきたしていることに不満をもつ学生が少なからずいるのではなかろうかとも推察している。

3. 今後の授業改善について

聴講生が増えるのは嬉しいことだが、物理的な授業環境が悪化しないよう、場合によっては教室の変更も視野に入れたいと考えている。また授業の進度についても、なるべく予定通りに進められるよう工夫していきたいと考えている。

平沢 岳人 Gakuhito HIRASAWA

建築情報処理、6セメ、水4、受講登録数15名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

建築情報処理ではプログラム言語Cに関して基本的な文法と一般的なアルゴリズムを講義している。一口に建築学といっても、分野は細かく細分化されており専門分野に踏み込んだ特殊なアルゴリズム等は時間的制約もあり内容に含められないが、グラフィクスに関しては分野を共通して利用価値が高いので、上述の基本文法にあわせてグラフィクスに関する基本的な考え方も教授している。

講義の進め方は教科書に沿って順に説明し、例題を各学生が実際に入力動作させてみて、説明内容への理解を確認する方法をとっている。したがって、講義中に演習的要素が織り込まれておりTAと私とで分担して教室を廻り、受講生の質問にその都度答える形式となっている。

プログラム言語の習得に関しては、一般的に、独学でも可能と思われるが、やはりこのような講義から入ることで見通し良く効率的に学べるであろう。本講義は平成21年度から開講されており、それ以前には建築学科には計算機言語を学べる講義がなかった。過去2年間は30名前後が履修していたが、23年度は15名と履修者数がほぼ半減した。より多くの学生に履修してほしいと考えている。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

満足度(問16)が4.2と4点を上回ったのはすなおにうれしい。

予習量(問13)の1.6は、予習より復習を重視するよう指導しているので妥当な数字である。質問量(問14)の2.5は前年より改善されたものの、実際の講義では教室中を廻って細かく質問に答えているので、やや理解に苦しむ数字である。アンケートの問14がこの講義のスタイルにはふさわしくない質問文になっていると考えた方が良さそうである。

教材の適切さ(問2)、教員の声量(問3)、教室(問7)、例題の善し悪し(問9)、宿題の適切さ(問10)、講義の進度(問11)に関してはいずれも4.0を上回って平均して4.5ポイント前後あり、この講義が好意的に受け入れられていることを示しているといえよう。次年度以降もこの評価が得られるように継続して努力したい。以上の結果を裏付けるように学生の出席率(問12)も4.0点を上回っている。教材の見やすさ(問5)については4.0をやや下回ったが、教室備え付けのプロジェクトの文字が小さいなどの影響もあるのかもしれない。

3. 今後の授業改善について

この講義の質に関しては、C言語の習得に直接関係するとはいえないグラフィクス課題を含めて建築の学生が興味を持って学べるように工夫したり、前週の宿題は翌週火曜日までに講義専用WEBサイトに回答例を掲載して復習しやすいよう便宜を計るなど、考えられる限りの手段は講じているつもりである。15回の講義ではこれ以上はなかなか望めないであろう。全30回にできれば、グラフィクス関連の内容を大幅に増やして建築の学生にとってより魅力のある講義とできそうであるが、建築学科の時間割は既に飽和状態といっても良いほどで、これも難しい。したがって、全30回の分量を可能な限り15回に濃縮させる気持ちをもって次年度以降の講義を組み立てることとしたい。

柳澤 要 Kaname Yanagisawa

都市環境建築計画講座・施設デザイン教育研究分野・准教授

施設デザイン計画Ⅱ（選）、6セメ、月4、受講登録数31名

施設デザイン計画演習Ⅱ（選）、6セメ、月5、受講登録数31名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

「施設デザイン計画Ⅱ」と「施設デザイン計画演習Ⅱ」は一体的な授業であり、授業の進め方としては、まず最初に60～90分ほど授業に関連したテーマ講義を行うがこれはパワーポイントを使用しなるべくビジュアルにわかりやすい講義をしている。また一方的に話すのではなく随時学生に質問をして理解度や興味を引き出すようにしている。さらに昨年度からパーソナル・レスポンス・システム（学生一人一人にクリッカーを持たせレスポンスさせる）を導入しているが、これは講義中にクイズを出題したり、アンケート・意見をとり、この結果もプロジェクターで見せながら進めるものである。なおこの講義中にレポートを2回程出題し授業の理解度を確認している。講義の後は休憩を挟んで、30～40分ほど講義テーマに関連した教材（ビデオやプリント）を活用した演習を行う。その後、6～8名の学生でグループをつくらせ、事前に課題にしておいた授業テーマに関するレポート課題（A4レポート用紙2枚程度）の相互発表や講義内容に関する意見交換のためのグループ・ディスカッションをさせている（30～40分）。この後に30分で講義も含めた演習課題に対する発表・意見交換を行う。最後にまとめとしてグループごとにグループ・ディスカッションの討議内容の報告や全体的な意見交換を行う（30～40分）。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

14項目に及ぶ5段階評価（70点満点）で、施設デザイン計画Ⅱ（施設デザイン計画演習Ⅱと同時に評価）は、全体的に4.0～5.0で高く評価されている。特に講義の聞こえやすさや見やすさ、例題やサンプル提示、進捗は4.5以上である。また問16（全体的な授業への満足度）は4.7、問15（授業の理解度）は4.3となっている。問18・19の演習と講義との関連性もそれぞれ4.5、4.9と高く評価されている。一方で問13（授業の予習復習）は2.4と低いが、これはレポート課題は毎回課しているが、授業自体の予習復習を課していないことが理由と思われる。また問14（質問をしたか？）は2.7で低いがこれは教官から当てていたので自ら質問はあまりしなかったということだと解釈できる。また問20～26に関してはグループに分けて行う実験に該当する項目であり、学生が誤って回答した（1名）もので本授業には当てはまらないもので無視してよいと思われる。

3. 今後の授業改善について

施設デザイン計画Ⅱ・施設デザイン計画演習Ⅱは、昨年度からパーソナル・レスポンス・システムを導入しているが、それ以前よりは講義に対する集中度や興味も引き出されたと感じている。またグループ・ディスカッションも昨年度から取り入れ今年度も行ったが、どのグループも熱心に討議が行われ期待以上の効果があった。今後は引き続きこれらの方法を踏襲しながら、より一層のインタラクティブな授業となるような工夫をしていきたい。

柏崎 隆志 Takashi Kashiwazaki

構造力学演習 I (必)、2セメ、月4、受講登録数 33 名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

この授業は、直前のコマで開講されている講義「構造力学 I」の内容に関する演習である。この授業は、直前の講義の内容に関する 1~2 題の例題を OHP で示しながら解いて見せ、その後 3~5 題程度の演習問題を解かせて授業時間内にレポートを提出させる、という形式で実施している。例題と演習問題の多くは参考書として紹介したテキスト中の問題から出題するようにしており、授業中や自宅での自習がやりやすくなるように配慮している。例題と演習問題の選定にあたっては、講義「構造力学 I」担当者と事前に問題案についての打ち合わせを行って連携をはかっており、講義内容の修得に適した問題を採用するように注意している。

提出されたレポートは、添削・採点して次の回に解答例と共に返却している。レポート返却の際には一人一人に手渡し、出来ていない点があればその際にコメントするように心掛けている。このため、みんなが間違いやすい点、個々の学生が誤解している点などを把握することができる。さらに、次の回の初めには、解答例を OHP で示しながら要点の解説を行い、わからない点などの質問を受け付けている。すなわち、わからない点があれば、あとへ持ち越さずになるべく早く理解できるように心掛けている。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

学生による授業評価結果を見ると、主要な 11 項目は 4 ポイント以上 (4.2~4.7) であり、その平均は 4.5 ポイントであったことから、本授業は基本的に良い評価を得ていると考えられる。関連講義との連携に関する設問の項目番号 18 (関連講義の理解への貢献) や 19 (関連講義の進度との連動) は、それぞれ 4.7、4.6 ポイントと高く、さらに自由記述欄には、「構造力学 I の講義の理解に役立った」とのコメントもあり、これは講義担当者と毎週打ち合わせを行って演習問題を決めていることによるものと思われる。このような関連講義担当者との綿密な連携は継続していきたい。

また、項目番号 15 (授業内容の理解度) と 16 (授業の満足度) は、それぞれ 4.2、4.5 ポイントを獲得し、昨年の 3.8、3.9 からの向上がみられた。

3. 今後の授業改善について

今回の授業評価結果では、項目番号 13 (学生自身の予習・復習状況)、14 (学生自身の質問状況) が、それぞれ 2.2、3.5 ポイントであった。昨年の 1.5、3.1 からの向上がみられたが、さらに、学生自身が予習・復習を自主的に行う習慣を身に付けられる方法を考えてみたい。また、質問しやすい授業の雰囲気作りを心掛けたい。

高橋 徹 Toru Takahashi

構造力学Ⅰ（必）、2セメ、月3、受講登録数74名

構造力学演習Ⅰ（必）、2セメ、月4、受講登録数38名

建築学セミナー（必）、1、2セメ、水1、受講登録数72名（8班編成分担）

建築設計Ⅳ（必）、4セメ後半、水4、5、6、受講登録数93名（2班編成分担）

荷重外力論（選必）、5セメ前半、火3、受講登録数35名

構造耐力論（選必）、5セメ後半、火3、受講登録数35名

1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

1年の必修科目から3年の選択科目まで幅広く担当しているので、科目によってアプローチを変えている。専門科目の中でも基礎的な科目である構造力学Ⅰでは、板書を中心とし、要所でPowerPointによる例示を織り交ぜながら、なるべくリアルタイムにノートを取らせるように心がけている。対応する構造力学演習Ⅰでは直前の時間の講義内容を反映し、学生の理解を深めるような解説を加え、机間を巡回して理解度を高めるようにしている。それに対して多少専門の度合いが強い荷重外力論と構造耐力論においてはPowerPointを中心に要点を板書で補い、PowerPointをPDF化したファイルをWebに事前に掲載しておくことで数式などの細かい部分のノートテイクの労力を削減し、話の流れに乗りやすいように工夫している。なお全ての授業について、1単元1コマで完結するように組み立てており、予習・復習に際しても取り組みやすくなるように工夫している。

2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

今年度は1年次に開講している構造力学Ⅰでアンケートを実施した。一昨年にも実施しているので、最も総合的な評価と考えられる授業の理解度で比較すると、一昨年が3.8であったのに対して今年度は4.0と改善されている。どこがわかりづらいのかを分析して授業に活かした結果が反映されているとすればうれしいことである。今年度の1年生の特徴として出席率が今までに比べて良かったことも理解度を助けているのかもしれない。

相変わらず、板書の文字が読みにくいという声が一定の割合（11名）から挙げられている。1コマの間に黒板を一巡して2,3回、書き込むことが必要な授業内容なので、細かい添字まで気を配って書いているつもりでも後ろの席からは読みづらいかもしれない。問5のスコアは4.4なので標準よりは良いつもりだが、引き続き改善に努力したい。

3. 今後の授業改善について

上述のとおり、一部の学生から板書が見づらいとの意見が出ているので、添字などまで気を配り、後ろからでも見やすい板書を心がけたい。あまり字を大きくすると、何度も書いては消す作業を繰り返すことになり、逆にノートを取りづらくなる恐れもある。黒板の端から端まで活用できるように、106および107教室における教台の整備をお願いしたい。過去の遺物となった教室左側のテレビボックスの撤去と教台の復活により、左前側の席からも黒板の視野が広まるはずである。